

美容室の真の繁栄をお手伝いする ' 10

たにくちだより 4月

谷口美容 検索

Free0120-417-011

Tel082-238-2221

Fax082-238-2227

www.taniguchi-b.com



当社のお得な情報を  
今すぐゲット!  
こちらに空メール下  
さいね♪  
空メールアドレス  
tb@xdm.jp

## サロンでの気づき

サロンを訪問し、気づかせていただいたこと、お聞かせいただいたことなどをお伝えしたいと思います。何かお役に立てれば嬉しいです。

今年は、桜の開花が平年より一週間近く早くなっており、四国では、すでに開花がはじまり、広島市の平和公園も3月22日当たりから開花するそうです。

花見で一杯！楽しみです！



最近、将棋の羽生善治名人の書いた「決断力」という本を読んだのですが、中高校生のころ、毎日のように学校の帰り道、平和公園の桜の木の下で、オジサン連中と日が暮れるまで将棋を指していたことを思い出します。

折角なので、羽生名人の本の中から一節をご紹介します。「将棋は駒を通しての対話である。…将棋の一手一手に嘘はない。お互いに勝ちたいとか、いい将棋を指したいとか、そういう真剣な気持ちで選択し、一つ一つ決断している。自分の力を百パーセント発揮し、本音で語っているのと同じである。盤上では、お互いの駆け引きになる。自分が指すだけでなく、相手が指した意図を考えなくてはいけない。それが、次に自分が指す手の大きなヒントになる。…」と書かれていました。将棋の世界も、美容の世界も同じなんですね。お客様と真剣に向かい合い、理解しあおうという気持ちから、お互いの心が通じ合い、現状打破の道も見えてくるのだと感じました。その他にも私達の仕事に通じることが書かれていましたので、文末に紹介させていただきます。

続いては、今月サロン様を訪問させていただいた中で、血が通った出来事をお伝えさせていただきます。



①私達が、サロンのお客様の声を、直接お聞きする機会は少ないのですが、先日、当社のシャンプーを買われたお客様から感謝の言葉をいただき本当にうれしかったですね。「初めて買ったんですけど、全然違いますね。」サロンの先生からは、「一般の商品はほとんど水が入ってるんですよ。だから違うんですよ。」と紹介されたそうです。これも実にわかりやすい説明ですね。「もちろん、先生の腕も凄いですよ。」と、何が凄いかって、「悩みやして欲しいことを良くわかってくれること。そして解消してくれること」とおっしゃっていました。

②ある先生の話から……最近気づいた事なんですけど、今までの自分はお客様の話を聞いているつもりで、実は、心で聞(聴)いていなかった。だから、自分の言うことも聴いてくれないことに気づいたんです。一所懸命聴いていると、相手も自分の話を聴いてくれるんですね。

③雨の降る日にサロンにお伺いした時、新人スタッフの方がタオルをスッと出して下さり、出る時には、皆さん笑顔で送って下さいました。そのサロン様はあたり前のことをしただけとも言われますが、温かいですね。

最後に今、話題のトヨタのリコール問題について、私が2ヶ月に1回参加させていただいている勉強会での話をお伝えさせていただきます。連日連夜いろんな事が言われていますが、私達は、この問題をどう自分に活かしていくかが大切なことだと思います。

さて、この問題が生まれた原因は、二つあるそうです。一つは外的要因です。米国のGM(ゼネラルモーターズ)の再建に米国政府がトヨタに支援を要請したのですが、拒否したこと。ハイブリット車で独り勝ち、目立ちすぎていることによる、いわゆるトヨタパッシング。これは防ぎようがない問題です。

二つ目は内的要因です。これが問題です。管理、管理ということで、数値上の目標達成のみを重視しすぎた結果、品質管理のコストまで削り始め、コスト優先の犠牲として欠陥部品が生まれたということです。管理職の人は、上の人に問題点を告げると管理職として失格につながるの、いつの間にか問題点は言わなくなり、下請けに無理なコストダウンを要求していったのです。管理者は、どこまでがコスト削減の限界かをつかむことだけが仕事になって、個人個人の問題が目に入らなくなって、人が痛んでしまった結果、トヨタは壊れない、高品質という信頼を失いかねない事態を招いたということです。

この問題から私達は、経営学は人間学と言われますが、使われている人の一人一人の気持ちはどうなのか、といった細かいことで会社というものは良くもなり悪くもなるということを肝に銘じなくてはなりません。会社は、ロボットでなく、一人一人の血が通った人間からつくりあげられているということ。上に立つ者は常に一人一人の気持ちを疎かにしてはいけないことを忘れてはなりません。

行きすぎたコスト削減は、生産性は向上したけれども、働く人は仕事が嫌になり、結局は生産性を落としてしまいます。良い品質は、安い金では買えないということ。

日本人というのは情に依存しないと生きていけない国民性。ところがそこが、切り捨てられている。日本の良いところが切り捨てられています。血が通う仕事をして行きたいものです。





### 実践には何倍もの「学び」がある

今は、周りに流されやすい時代だ。情報の量がふえ過ぎ、それへの依存度がどうしても高くなってしまふ。高くなると、イメージを思い浮かべたり、ものを創るといった力が弱まってしまいがちだ。そんな中で、自分なりのスタイルや信念を持つことが、非常に大事になってきているのではないだろうか。それが無いと根なし草と同じ、流されるだけになる。自分なりの信念やスタイルを持つことは、物事を推し進め、深めていくためのキーなのだ。

たとえ一つの形のスペシャリストになっても、それしかやらないことがわかっていけば、相手はすぐに対応してくるだろう。野球で150キロを超える速球を投げても打者はバットを合わせてしまう。だが、そうであっても、もがきながらでも続けていると、いろいろ考える。考えながら多くのことが学べていると思う。とにかく、実践してみる事が大事である。得るものが多いと私は考えている。

ビジネスや会社経営でも同じだろうが、一回でも実践してみると、頭の中だけで考えていたことの何倍もの「学び」がある。理解度が深まることで、頭の中が整理され、アイデアが浮かびやすくなる。新しい道も開けてくるだろう。



私は、今の時代は、いろんなことが便利になり、近道が非常に増えた時代だと思っている。何かをやろうと思ったときに、さまざまな情報があり、安易な道、やさしい道が目の前に数多くある。楽に進める環境も充実している。昔は、遠い、一本の道しかなかった。そのため、選択の余地なくその道を歩んだけれど、今は近道が他にたくさんできている。わざわざ一番遠い道を選んで行くのは損だという思いにかられる。その横では近道で通り過ぎてゆく人がたくさんいるのだから。自分自身で、「何をやっているのだ」と思うこともあるだろう。逆に昔よりも選択が難しい時代なのかもしれない。しかし、遠回りをすると目標に到達するのに時間はかかるだろうが、歩みの過程で思わぬ発見や出会いがあったりする。将棋でも、直接対局に関係ないように思えることが、あとになってプラスになったということはいろいろある。対局で、未知の場面に遭遇したときには、直接的な知識や経験以外のものが、役に立ったりするのだ。

若いころ、一人で考え、学んだ知識は、今の将棋では古くなり、何の役にも立たない。だが、自分の力で吸収した考える力とか未知の局面に出会った時の対処の方法とか、さまざまなことを学べたと思っている。私は、自ら努力せずに効率よくやろうとすると、身につくことが少ない気がしている。近道思考で、簡単に手に入れたものは、もしかしたらメッキかもしれない。メッキはすぐに剥げてしまうだろう。・・・(中略)三人寄れば文殊の知恵という諺もあり、・・・何人かの人と共同で検討すると、理解の度合いが二倍というよりも二乗、三乗と早く進んでいくのは確かだ。だからといって、全面的に頼ってしまうと、自分の力として勝負の場では生かせないだろう。基本は、自分の力で一から考え、自分で結論を出す。それが必要不可欠であり、前に進む力もそこからしか生まれないと、私は考えている。



才能とは、同じ情熱、気力、モチベーションを持続することである

・・・略。以前私は、才能は一瞬のきらめきだと思っていた。しかし、今は、十年とか二十年、三十年を同じ姿勢で、同じ情熱を傾けられることが才能だと思っている。直感でどういう手が浮かぶとか、ある手をぱっと切り捨てることができるとか、確かに個人の能力に差はある。しかし、そういうことより、継続できる情熱を持てる人のほうが、長い目で見ると伸びるのだ。

奨励会の若い人たちを見ると、一つの場面で、発想がパッと閃く人はたくさんいる。だが、そういう人たちがその先プロになれるかという点で、意外にそうでもない。逆に、一瞬の閃きとかきらめきのある人よりも、さほどシャープさは感じられないが同じスタンスで将棋に取り組んで確実にステップを上げていく若い人のほうが、結果として上に来ている印象がある。

プロの世界は、将棋界にかぎらず若いからといって将来の保証はまったくない。確かに年齢が若ければ集中力も体力も充実している。だからといって、その人に明るい未来があるかの保証はまったくないのだ。

奨励会を抜け出すのも大変だが、たとえば、タイトル戦に四、五段の人が出ようと思ったら、予選で若手同士でつぶし合わなければならない。勝ち上がってもA級が待っている。それを全部勝たなくてはいけない。層の厚さという点で、私のころとはかなり状況が違う。やっても、やっても、結果がでない・・・・そういう状況だ。しかし、そういう中でも、腐らずに努力していけば、少しずつでもいい方向に向かっていくと思っている。

### モチベーションの継続が大事

将棋界は、現役のプロの棋士はおおよそ百五十人だが、力が衰えたと、すぐに置かれていかれてしまう可能性があるという意味ではこわいところだ。一週間、まったく駒にさわらずに将棋から離れていると、力はガクンと落ちてしまうだろう。元の棋力を取り戻すには一週間の何倍もの努力が必要となる。どの世界においても若い人たちが嫌になる気持ちは理解はできる。周りの全員が同じことをやろうとしたら、努力が報われる確率は低くなってしまふ。今の時代の大変なところだ。何かに挑戦したら確実に報われるのであれば、誰でも必ず挑戦するだろう。報われないかもしれないところで、同じ情熱、気力、モチベーションをもって継続してやるのは非常に大変なことであり、私は、それこそが才能だと思っている。誰でも、時には落ち込んだり、挫折感を抱いたり、飽きたりもする。・・・



プロらしさとは、力を瞬間的ではなく、持続できることだ・・・略・・・実力と結果で成り立っているのがプロの制度である。プロらしさとは何か?と問われれば、私は、明らかにアマチュアとは違う特別なものを持っており、その力を、瞬間的ではなく持続できることだと思っている。私が大事にしているのは、年間を通しての成績である。・・・略・・・どの世界においても、大切なのは実力を持続することである。そのためにモチベーションを持ち続けられる。地位や肩書は、その結果としてあとについてくるものだ。逆に考えてしまうと、どこかで行き詰まったり、いつか迷路にはまり込んでしまふのではないだろうか。